３Ｒ瓦版（１月号）2018年

© 2017 フジコ イトウ All Rights Reserved.

ちょっと、ペットボトル飲料減らしませんか

ペットボトルは手軽で便利だけれど

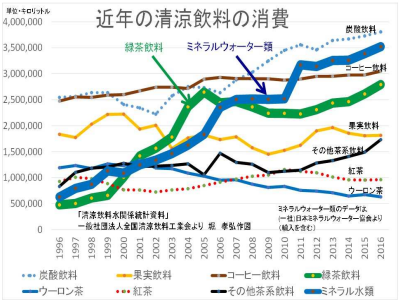
近年，軽くて割れないＰＥＴ樹脂（ポリエチレンテレフタレート）製の容器（以下，ペットボトル）は，日用品や化粧品など様々な用途で使われるようになり，消費が拡大しています。特に飲料用のボトルとして重宝され，利用が増えました。

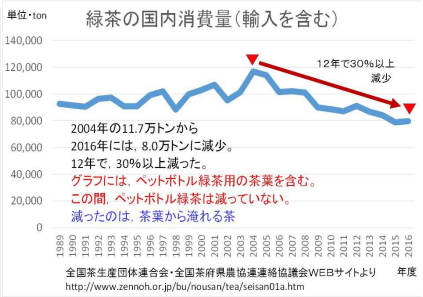
使用後のペットボトルリサイクルも社会に根付きましたが，何もかもうまくいっているわけではありません。年々増えていくペットボトルのリサイクルには，大きな労力と費用が必要です。

ペットボトル入り緑茶飲料が増え、大きく減ったリーフ茶

増えている商品の中身についても考える必要があります。近年特に利用が増えている清涼飲料として、ミネラルウォーターと並んで緑茶飲料があります（図１）。緑茶飲料の消費は、20 年の期間でみると 5 倍以上に増えましたが、今ではそのほとんど（96%）がペットボトルで供給されています。

一方，緑茶そのものの消費は大きく減りました（図２）。直近約 10 年で 30%も減っています。図２には，ペットボトル用の茶葉も含んでいるので，減ったのは茶葉から淹れたお茶（リーフ茶）ばかり。最近では，「お茶の淹れ方を知らない」という人や，「お茶といえば，ペットボトル緑茶しか飲んだことがない」人も見かけるようになりました。





「リーフ茶の普及で，ペットボトルを減らそうキャンペーン」に取り組む

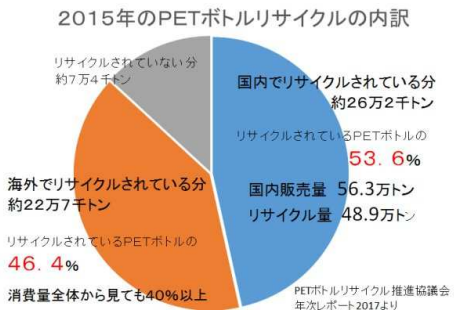
このままペットボトル緑茶の消費が増え続けるならば，ごみ問題だけでなく，文化面も含めて，様々な影響が出るとの思いから，京都市ごみ減量推進会議では平成２８年度から「リーフ茶の普及で，ペットボトルを減らそうキャンペーン」に取り組んでいます。

多くの人から「リーフ茶応援メッセージ」を頂くとともに，「おいしいお茶の淹れ方講習」の開催，大学での環境教育プログラムの実践などに取り組んでいます。詳しくは，http://kyoto-leaftea.net/（「ペットボトルの普及で」で検索）をご覧下さい。

国内のリサイクルキャパを越えたペットボトル消費

上記のサイトには，ペットボトルリサイクルの現状も紹介しています。その中から一点だけ紹介します。図３は，回収されたペットボトルが国内・国外，どこでリサイクルされたかを示したものです。すでに国内のリサイクル産業のキャパシティを，消費が大きく越えていることがわかります。

時間のゆとりを見つけて「おいしいお茶を自分で淹れる」，そのような，より上質な暮らしの実践が，ペットボトルに頼った暮らしの見直しにつながります。



京都市ごみ減量推進会議
堀　孝弘

REPAIR FACTORY
㈲本杉工機
京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地
tel：0774-66-6254